



平成27年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年3月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ドクターシーラボ

コード番号 4924 URL <http://www.ci-labo.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 石原 智美

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長

(氏名) 小杉 裕之

TEL 03-6419-2500

四半期報告書提出予定日 平成27年3月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年7月期第2四半期の連結業績(平成26年8月1日～平成27年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年7月期第2四半期	17,757	6.1	2,917	△20.9	2,992	△19.6	1,916	△16.2
26年7月期第2四半期	16,744	0.6	3,689	△3.5	3,721	△5.6	2,287	△6.6

(注) 包括利益 27年7月期第2四半期 2,000百万円 (△13.9%) 26年7月期第2四半期 2,322百万円 (△6.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年7月期第2四半期	76.98	—
26年7月期第2四半期	91.77	—

(注) 平成26年2月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。
1株当たり四半期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年7月期第2四半期	26,690	22,396	83.9	901.52
26年7月期	27,691	22,741	82.1	912.33

(参考) 自己資本 27年7月期第2四半期 22,396百万円 26年7月期 22,741百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年7月期	—	—	—	81.00	81.00
27年7月期	—	—	—	—	—
27年7月期(予想)	—	—	—	82.00	82.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年7月期の連結業績予想(平成26年8月1日～平成27年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,300	9.4	8,500	13.2	8,500	12.3	5,400	17.7	217.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有
（注）詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報（注記事項）」に関する事項 （2） 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年7月期2Q	25,427,300 株	26年7月期	25,427,300 株
② 期末自己株式数	27年7月期2Q	584,338 株	26年7月期	500,038 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年7月期2Q	24,903,176 株	26年7月期2Q	24,927,300 株

（注）平成26年2月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。
発行済株式数は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要素により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 （2） 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費などに弱さが見られましたが、緩やかな回復基調が続いております。ただし、消費者マインドの弱さや海外景気の下振れなど、わが国の景気を下押しするリスクが存在しております。

このような環境の中、当社グループは、顧客基盤のさらなる強化を目的として、新規顧客の獲得に加え、既存顧客への継続購入を促す施策を行ってまいりました。また、新商品発売及び既存商品のリニューアルを行うなど、さらなる商品ラインナップの充実に努めてまいりました。

販路別に見ますと、通信販売においては、大容量のアクアコラーゲンゲルシリーズや福袋の拡販を行い、年末年始の需要期における売上高の拡大を目指すと同時に、継続的な商品のご利用を促す施策として、引き続き「定期トクトク便」へのご案内を強化し、安定した売上高の維持にも努めてまいりました。さらに、新規顧客の獲得にも積極的に取り組み、顧客獲得に効率的なメディア媒体を組み合わせたプロモーション活動を強化することにより、新規購入者数の増加に繋げることができました。こうした施策が功を奏し、通信販売の売上高は12,032百万円となり、前年同期と比較して12.2%増加いたしました。

対面型店舗販売では、ジェノマーブランドについてのリニューアル及び新商品発売に加え、お手入れ会やカウンセリングサービスを積極的に実施してまいりました。この他にも外国人観光客の需要に応える施策として、当社の銀座本店にて化粧品免税販売を開始し、中国人のお客様を中心とした外国人来店客数も大幅に増加いたしました。以上により、対面型店舗販売の売上高は、1,945百万円となり、前年同期と比較して3.4%増加いたしました。

卸売販売においては、新規顧客並びに商品棚獲得を目的として、卸売販路限定の商品の発売や、美粧食の取扱い店舗拡大などの施策を行ってまいりました。しかしながら、前年同期に主力商品である「アクアコラーゲンゲルエンリッチリフトEX」のリニューアルに伴う大きな初期出荷がありましたが、当第2四半期連結累計期間では大型新商品等の出荷が無かったことに加え、ドラッグストア向けの拡販施策が下期にずれ込んだため、出荷額は前年同期を下回りました。以上により、卸売販売の売上高は、3,297百万円となり、前年同期と比較して9.5%減少いたしました。

海外においては、香港は有名チェーンストアのマニングスでの商品展開を進めた他、新たな店舗出店と免税カウンター開設の結果、前年同期をやや上回る販売状況でございました。台湾では、同国内での百貨店の売上が前年同期よりも下回っていることや、ラボラボブランドの卸展開に向けての進捗が計画よりも遅れたことにより、前年同期を下回る販売状況でありましたが、広告宣伝費の削減など費用の圧縮を行い、利益の確保に努めました。シンガポールでは、現地広告媒体にて商品掲載を行うなど、認知度を向上させる施策を講じた他、空港内に免税店を出店した結果、前年同期を大きく上回る販売状況でございました。以上により、海外事業の売上高は、482百万円となり、前年同期と比較して2.1%減少いたしました。

利益面では、前年同期と比較すると売上高は増加した一方で、積極的な広告販促活動に加え、今後の倉庫費用の削減、物流の効率化を図るため、サンプル品などの販促物の廃棄を行ったことにより、販売促進費の計上が増加いたしました。さらに、通信販売の受注単価の低下により、受注効率が低下し、受注に伴う業務委託費及び配送運賃の増加が顕著となりました。その結果、営業利益率は16.4%と前年同期の水準を下回り、営業利益は2,917百万円となり、前年同期比で20.9%減少いたしました。

以上により、売上高は17,757百万円（前年同期比6.1%増）、経常利益は2,992百万円（前年同期比19.6%減）、四半期純利益は1,916百万円（前年同期比16.2%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<化粧品事業>

化粧品事業においては、ドクターシーラボブランドは、「アクアコラーゲンゲルスーパーモイスチャーEX」が前年同期比で販売状況が好調に推移しましたが、「アクアコラーゲンゲルエンリッチリフトEX」は卸売販売における出荷が前年と比較して減少したことが主因となり、前年の販売実績を下回る結果となりました。これにより、アクアコラーゲンゲルシリーズ全体としては前年同期比で微減いたしました。その一方で、ファンデーション商品群の強化の一環として発売した「パーフェクトゲルファンデーション」や、第3四半期連結会計期間以降にリニューアルを予定している「VC100ポアホワイトローション」も、引き続き好調な売れ行きでした。ジェノマーブランドは、来店客数及び購入単価の増加を目的として、既存商品のリニューアル、新商品発売並びに限定コフレ発売を行いました。ラボラボブランドにおいては、免税販売を行っている銀座店にて、同ブランドの売れ行きが好調でした。

以上により、化粧品事業の売上高は、15,627百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益は2,978百万円（前年同期比14.8%減）となりました。

<健康食品事業>

健康食品事業においては、卸売販売における販売店舗数が大幅に増加した「美禅食」を中心に売上高が好調に推移しました。また、サプリメント商品群を充実させる一環として、当第2四半期連結累計期間に、新商品「特濃ブルーベリーアサイープラス」、「5つのサポートグルコサミン」、「発酵高麗人参10000」を発売しました。一方、売上高の拡大のための積極的な広告活動を行ったことにより、営業損益は前年同期を下回る結果となりました。

以上により、健康食品事業の売上高は、2,130百万円（前年同期比33.9%増）、営業損失は60百万円（前年同期は営業利益196百万円）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年9月10日に発表しました連結業績予想は変更ありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実行税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,114,285	15,352,563
売掛金	4,145,419	4,051,544
有価証券	251,306	251,350
商品及び製品	2,165,846	2,280,034
原材料及び貯蔵品	1,583,548	1,402,098
その他	679,687	639,903
貸倒引当金	△86,398	△101,867
流動資産合計	24,853,694	23,875,627
固定資産		
有形固定資産		
建物	765,910	777,108
減価償却累計額	△296,328	△317,696
建物(純額)	469,582	459,412
工具、器具及び備品	1,280,230	1,298,746
減価償却累計額	△1,051,170	△1,077,375
工具、器具及び備品(純額)	229,059	221,370
土地	1,315,697	1,315,697
その他	103,057	103,057
減価償却累計額	△36,230	△43,948
その他(純額)	66,827	59,108
有形固定資産合計	2,081,166	2,055,590
無形固定資産		
ソフトウェア	354,101	268,220
その他	29,627	93,354
無形固定資産合計	383,728	361,574
投資その他の資産	372,890	397,511
固定資産合計	2,837,786	2,814,676
資産合計	27,691,480	26,690,304

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (平成26年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	939,596	681,829
未払金	1,729,634	1,645,683
未払法人税等	1,633,803	1,085,215
賞与引当金	87,209	115,769
ポイント引当金	92,327	120,195
その他	234,802	412,462
流動負債合計	4,717,374	4,061,156
固定負債		
退職給付に係る負債	132,254	141,537
その他	99,946	91,293
固定負債合計	232,200	232,830
負債合計	4,949,575	4,293,986
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,209,208	1,209,208
資本剰余金	1,686,608	1,686,608
利益剰余金	21,198,200	21,096,061
自己株式	△1,354,685	△1,681,804
株主資本合計	22,739,331	22,310,073
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,341	20,981
為替換算調整勘定	△2,768	65,262
その他の包括利益累計額合計	2,573	86,244
純資産合計	22,741,905	22,396,317
負債純資産合計	27,691,480	26,690,304

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位: 千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年8月1日 至 平成27年1月31日)
売上高	16,744,502	17,757,999
売上原価	2,891,323	3,213,456
売上総利益	13,853,178	14,544,543
販売費及び一般管理費	10,163,235	11,626,586
営業利益	3,689,943	2,917,956
営業外収益		
受取利息	1,277	1,753
受取配当金	80	55
為替差益	13,540	50,308
受取手数料	5,482	12,042
商品破損受取賠償金	2,442	5,449
その他	9,196	6,922
営業外収益合計	32,020	76,532
営業外費用		
支払利息	434	356
支払手数料	—	327
その他	272	812
営業外費用合計	706	1,496
経常利益	3,721,256	2,992,993
特別損失		
固定資産除却損	483	1,238
減損損失	2,991	—
特別損失合計	3,474	1,238
税金等調整前四半期純利益	3,717,781	2,991,754
法人税等	1,430,083	1,074,785
少数株主損益調整前四半期純利益	2,287,698	1,916,969
少数株主利益	—	—
四半期純利益	2,287,698	1,916,969

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年8月1日 至 平成27年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,287,698	1,916,969
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△692	15,639
為替換算調整勘定	35,459	68,031
その他の包括利益合計	34,766	83,671
四半期包括利益	2,322,464	2,000,640
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,322,464	2,000,640
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年8月1日 至 平成27年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,717,781	2,991,754
減価償却費	196,851	167,624
長期前払費用償却額	4,457	4,348
貸倒引当金の増減額(△は減少)	16,212	15,469
賞与引当金の増減額(△は減少)	6,825	28,560
ポイント引当金の増減額(△は減少)	1,781	27,867
退職給付引当金の増減額(△は減少)	7,743	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	9,283
受取利息及び受取配当金	△1,358	△1,809
支払利息	434	356
減損損失	2,991	—
固定資産除却損	483	1,238
売上債権の増減額(△は増加)	△74,016	85,903
たな卸資産の増減額(△は増加)	233,327	90,911
仕入債務の増減額(△は減少)	90,667	△283,774
未払金の増減額(△は減少)	△97,551	△115,327
未払消費税等の増減額(△は減少)	△3,574	101,453
預り金の増減額(△は減少)	352	58,846
その他	△58,001	75,031
小計	4,045,404	3,257,733
利息及び配当金の受取額	1,277	1,753
利息の支払額	△434	△356
法人税等の支払額	△1,058,811	△1,623,289
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,987,436	1,635,845
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△251,912	△25,498
無形固定資産の取得による支出	△30,939	△62,442
敷金及び保証金の差入による支出	△987	△14,705
敷金の回収による収入	1,013	94
その他	△339	△1,361
投資活動によるキャッシュ・フロー	△283,165	△103,913
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,985,876	△2,016,090
自己株式の取得による支出	—	△327,119
その他	△4,969	△6,045
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,990,845	△2,349,254
現金及び現金同等物に係る換算差額	21,402	55,601
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	734,827	△761,722
現金及び現金同等物の期首残高	13,481,670	16,114,285
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,216,498	15,352,563

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	化粧品事業	健康食品事業	四半期連結損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	15,153,697	1,590,805	16,744,502
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	15,153,697	1,590,805	16,744,502
セグメント利益	3,493,801	196,142	3,689,943

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、健康食品事業の売上高及び利益が全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、報告セグメントごとの売上高及び利益に関する情報の記載を省略しておりましたが、第1四半期連結会計期間より売上高及び利益の健康食品事業の開示情報としての重要性が増したため、「報告セグメントごとの売上高及び利益に関する情報」を記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年8月1日 至 平成27年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	化粧品事業	健康食品事業	四半期連結損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	15,627,467	2,130,531	17,757,999
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	15,627,467	2,130,531	17,757,999
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,978,373	△60,417	2,917,956

(注) セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。